

Iwatani

2025年3月期第2四半期 決算説明資料

（見通しに関する注意事項）

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

2024年11月20日
岩谷産業株式会社

〔証券コード 8088〕

目次

- 1. 2025年3月期第2四半期 決算概況**
 - － 決算ハイライト
 - － 連結経営成績
 - － 連結経営成績（セグメント別）
 - － セグメント別営業利益分析
 - － 連結貸借対照表
 - － 連結キャッシュ・フロー計算書
- 2. 2025年3月期 通期業績予想**
 - － 通期業績予想
 - － セグメント別見通し
 - － 株主還元方針
- 3. 中期経営計画「PLAN27」の進捗**
 - － 重点施策の進捗
- 4. コスモエネルギーホールディングス株式会社との資本業務提携について**

2025年3月期第2四半期 決算概況

2025年3月期 第2四半期 決算ハイライト

▶ 売上高は増収、営業利益は増益。全ての利益項目で過去最高益を更新。

2025年3月期 第2四半期 決算概要

- 増収要因：次世代自動車向け二次電池材料の販売が低調となったが、L P ガス輸入価格が高値で推移し、増収。
- 増益要因：産業ガス・機械事業、マテリアル事業が減益となったものの、総合エネルギー事業で、カセットこんろ・ボンベの販売が伸長したことに加え、L P ガス市況要因による減益影響が改善（対前年同期比+40億円）し、増益。
- 通期業績予想：変更なし

売上高

4,000億円

前年同期比 +57億円 (+1.5%)

営業利益

161億円

前年同期比 +15億円 (+10.6%)

経常利益

222億円

前年同期比 +40億円 (+22.5%)

中間純利益

150億円

前年同期比 +30億円 (+25.1%)

■ 営業利益 四半期推移 (億円)



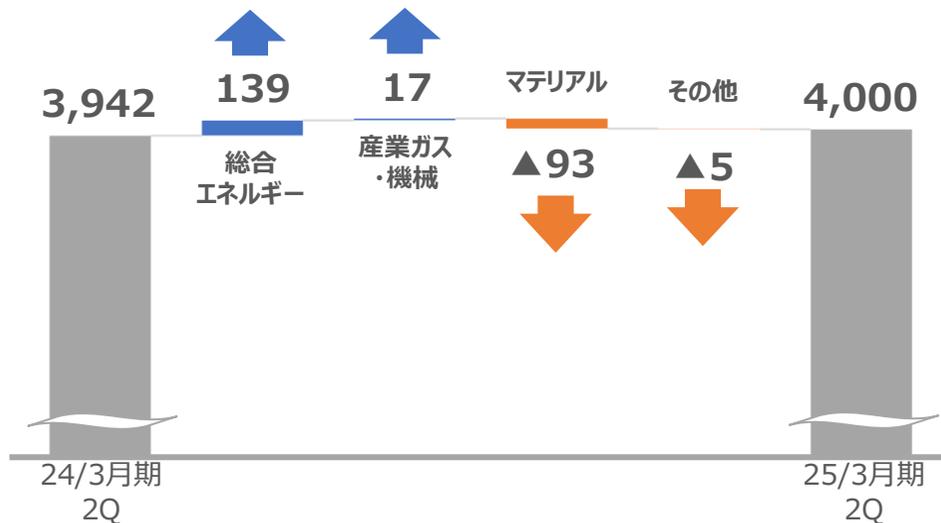
24/3月期

25/3月期

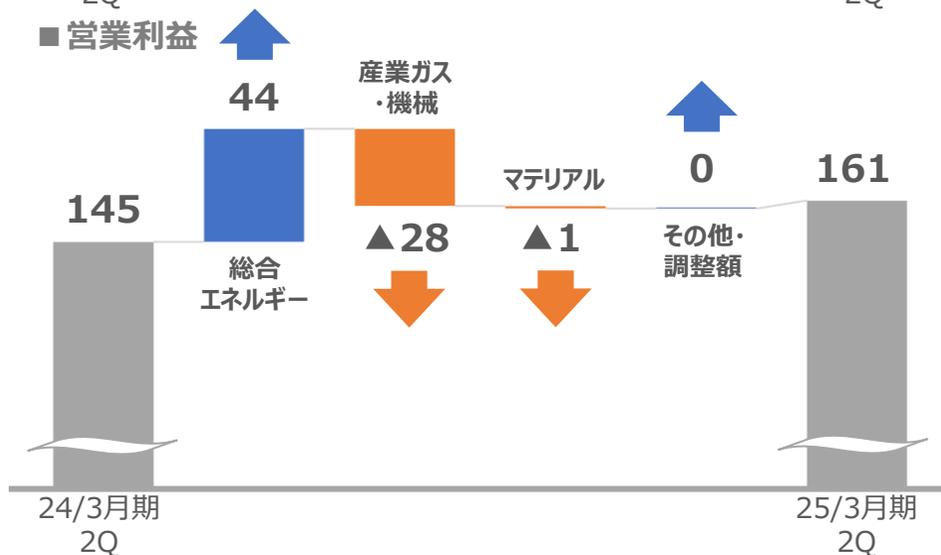
連結経営成績

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	増減額 (増減率)	2025/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	4,000	3,942	+57 (+1.5%)	9,020	44.3%
売上総利益	1,066	1,009	+57 (+5.7%)	-	-
営業利益	161	145	+15 (+10.6%)	527	30.6%
市況要因除く 営業利益	171	197	▲25 (▲12.8%)	527	32.6%
営業外損益	61	35	+25 (+70.8%)	-	-
コスモエネルギー HDに関連する 持分法投資損益	35	-	+35 (-)	159	-
経常利益	222	181	+40 (+22.5%)	728	30.6%
親会社株主に帰属 する中間純利益	150	120	+30 (+25.1%)	540	27.9%

■売上高



■営業利益



連結経営成績（セグメント別）

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	4,000	3,942	+57	+1.5%	9,020	44.3%
■ 総合エネルギー事業	1,572	1,433	+139	+9.7%	3,840	41.0%
■ 産業ガス・機械事業	1,285	1,268	+17	+1.4%	2,750	46.8%
■ マテリアル事業	991	1,085	▲93	▲8.6%	2,105	47.1%
■ その他	150	155	▲5	▲3.2%	325	46.2%
営業利益	161	145	+15	+10.6%	527	30.6%
■ 総合エネルギー事業	32	▲11	+44	-	210	15.6%
■ 産業ガス・機械事業	79	108	▲28	▲26.4%	220	36.3%
■ マテリアル事業	61	62	▲1	▲2.0%	128	47.9%
■ その他・調整額	▲12	▲13	+0	-	▲31	-
市況要因を除く営業利益	171	197	▲25	▲12.8%	527	32.6%
（コスモエネルギーHDに関連する 持分法投資損益）	35	-	+35	-	159	-
経常利益	222	181	+40	+22.5%	728	30.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益	150	120	+30	+25.1%	540	27.9%

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ）

前提 ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動

LPガス輸入価格
(中東玉と米国玉で構成)

リンク

卸売価格

②輸入～販売の期間は約3カ月



LPガス輸入
価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※

上昇局面

安い在庫を高値で販売

売値の基準

増益効果

原価の基準

LPガス輸入価格
(約3カ月)

下落局面

高い在庫を安値で販売

減益効果

原価の基準

売値の基準

LPガス輸入価格

※ 在庫量・販売時期・販売数量によって実際の業績への影響は変動します

セグメント別営業利益分析（総合エネルギー事業）

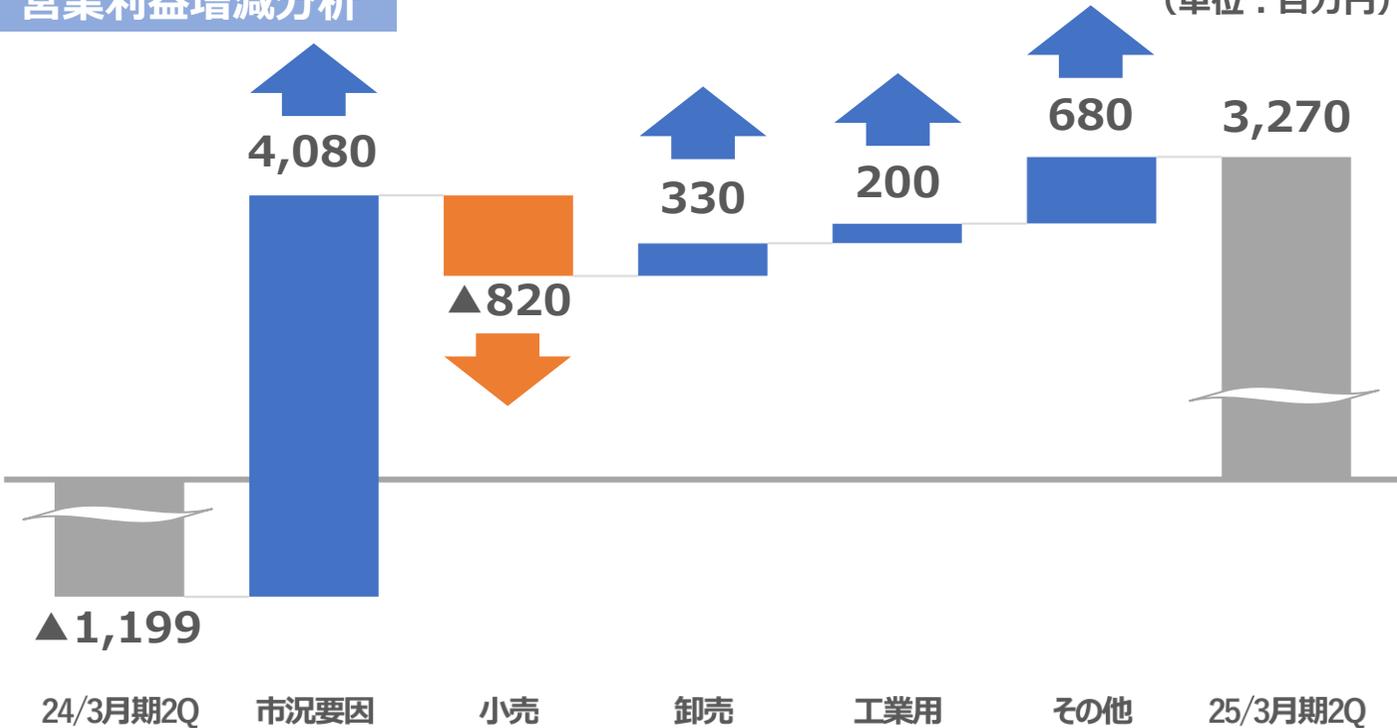
決算実績

(単位：億円)

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	1,572	1,433	+139	+9.7%	3,840	41.0%
営業利益	32	▲11	+44	-	210	15.6%
市況要因除く 営業利益	43	39	+3	+9.9%	210	20.6%

営業利益増減分析

(単位：百万円)



主な営業利益増減要因

(単位：百万円)

■市況要因 +4,080

(億円)	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	通期 累計
当期	▲0.7	▲9.8	▲10.5	-	-	-
前期	▲17.3	▲34.0	▲51.3	+32.6	+26.3	+7.5
差異	+16.6	+24.2	+40.8	-	-	-

■小売 ▲820

・LPガス輸入価格の上昇により収益性が低下

■卸売 +330

・物流効率化等によりLPガスの収益性が改善

■工業用 +200

・増熱用LPガスの販売が増加

■その他 +680

・国内外ともにカセットこんろ・ボンベの販売が堅調
・エネルギー関連機器の販売が伸長

セグメント別営業利益分析（産業ガス・機械事業）

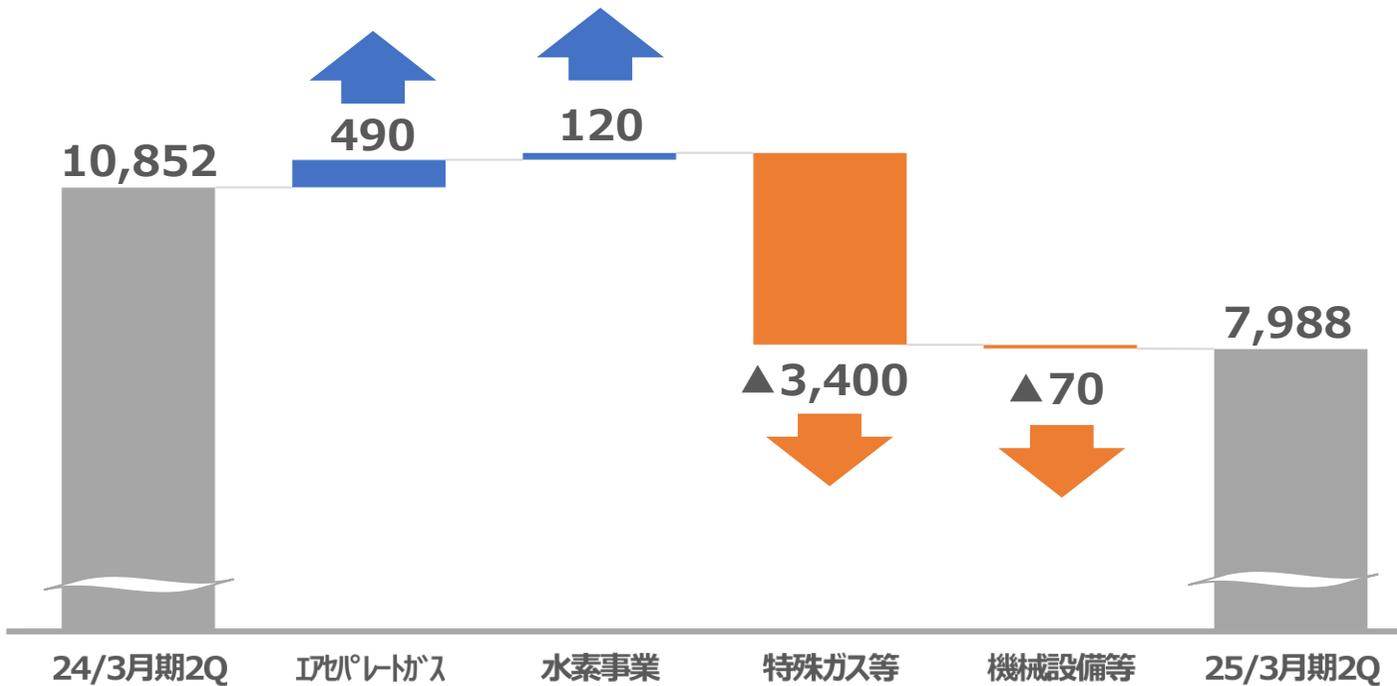
決算実績

（単位：億円）

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	1,285	1,268	+17	+1.4%	2,750	46.8%
営業利益	79	108	▲28	▲26.4%	220	36.3%

営業利益増減分析

（単位：百万円）



主な営業利益増減要因

（単位：百万円）

- エアセパレートガス +490**
 ・電子部品業界向けを中心に販売数量が増加
- 水素事業 +120**
 ・主に宇宙開発向けに液化水素の販売が堅調に推移
- 特殊ガス等 ▲3,400**
 ・マレーシアの事業会社買収により、冷媒事業が拡大
 ・ヘリウムは中国を中心に市況が軟化し、収益性が低下
 ・炭酸ガスの調達コストが増加
- 機械設備等 ▲70**
 ・防災ガス設備の販売が増加も、自動車関連向け設備が減少

セグメント別営業利益分析（マテリアル事業）

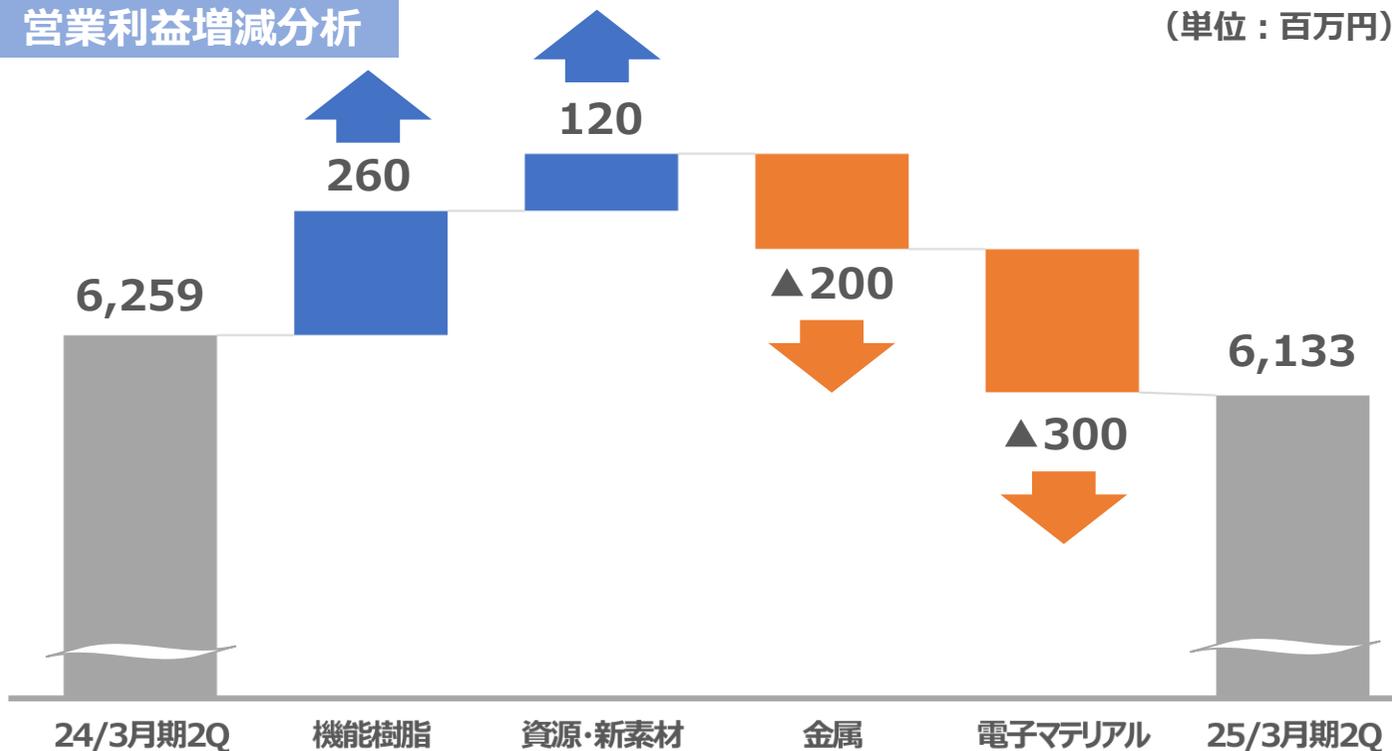
決算実績

（単位：億円）

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	991	1,085	▲93	▲8.6%	2,105	47.1%
営業利益	61	62	▲1	▲2.0%	128	47.9%

営業利益増減分析

（単位：百万円）



主な営業利益増減要因

（単位：百万円）

- 機能樹脂 **+260**
 - ・エアコン向け成形品や消費者向け樹脂製品の販売が伸長
- 資源・新素材 **+120**
 - ・ミネラルサンドは豪州自社鉱区での生産が堅調に推移するとともに、国内外で販売数量が増加
- 金属 **▲200**
 - ・ステンレスの販売価格が下落
- 電子マテリアル **▲300**
 - ・次世代自動車向け二次電池材料が市況価格の下落および販売先の在庫調整の影響等により低調

連結貸借対照表

■ 国内外での設備投資等により、有利子負債が増加。

(単位：億円)

	2024年 9月末	2024年 3月末	増減額	主な増減理由・備考
流動資産	2,952	3,095	▲143	売上債権の減少等
（有形固定資産）	2,357	2,254	+103	
（無形固定資産）	407	365	+42	
（投資その他の資産）	2,643	2,629	+14	
固定資産	5,408	5,248	+160	
総資産	8,360	8,343	+16	
（流動負債）	2,632	3,125	▲492	短期借入金および買入債務の減少
（固定負債）	1,881	1,489	+391	社債 300億円の発行
負債	4,513	4,614	▲100	有利子負債 2,753億円（+208億円） 有利子負債依存度 32.9%
（自己資本）	3,736	3,623	+113	自己資本比率 44.7%
（非支配株主持分）	110	106	+4	
純資産	3,846	3,729	+117	
負債・純資産	8,360	8,343	+16	

連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業キャッシュ・フローは132億円の収入。投資キャッシュ・フローは、積極的な投資等により308億円の支出となり、結果、フリー・キャッシュ・フローは176億円の支出。

(単位：億円)

	2025/3月期 2Q 実績	2024/3月期 2Q 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	132	98	+34
投資キャッシュ・フロー	▲308	▲298	▲10
フリー・キャッシュ・フロー	▲176	▲200	+23
財務キャッシュ・フロー	101	125	▲24
換算差額等 ※1	20	10	+10
現預金等の増減額 ※2	▲53	▲63	+10
現預金等の期首残高	336	332	+3
現預金等の期末残高	282	268	+13

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

2025年3月期 通期業績予想

2025年3月期 通期業績予想

(単位：億円)

	2025/3月期 予想	2024/3月期 実績	増減額	増減率
売上高	9,020	8,478	+541	+6.4%
■ 総合エネルギー事業	3,840	3,571	+268	+7.5%
■ 産業ガス・機械事業	2,750	2,621	+128	+4.9%
■ マテリアル事業	2,105	1,982	+122	+6.2%
■ その他	325	303	+21	+7.1%
営業利益	527	506	+20	+4.1%
■ 総合エネルギー事業	210	201	+8	+4.1%
■ 産業ガス・機械事業	220	217	+2	+1.4%
■ マテリアル事業	128	123	+4	+4.0%
■ その他・調整額	▲31	▲35	+4	-
市況要因を除く営業利益	527	498	+28	+5.7%
(コスモエネルギーHDに関連する 持分法投資損益)	159	93	+65	+69.5%
経常利益	728	662	+65	+10.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	540	473	+66	+14.0%

・期初予想からの変更：なし
(2024年5月13日)

想定レート

為替 145円/\$

LPガス輸入価格 650\$/ト

(2023年度実績)

為替 143.5円/\$

LPガス輸入価格 569\$/ト

配当予想

2025年3月期 **32.5円/株**

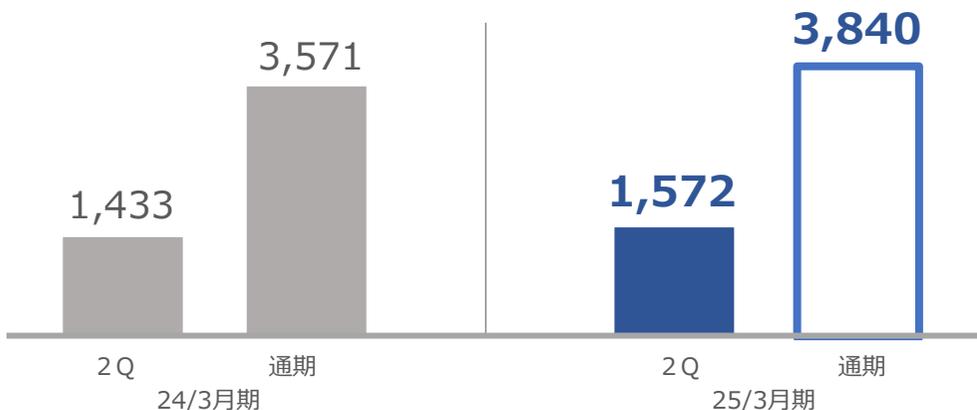
※コスモエネルギーHD持分法化に伴う
利益影響の配当は含めておりません。

※2024年9月30日を基準日、
2024年10月1日を効力発生日として、
普通株式1株につき4株の割合で株式
分割を実施し、当該株式分割後の
金額となります。

総合エネルギー事業の見通し

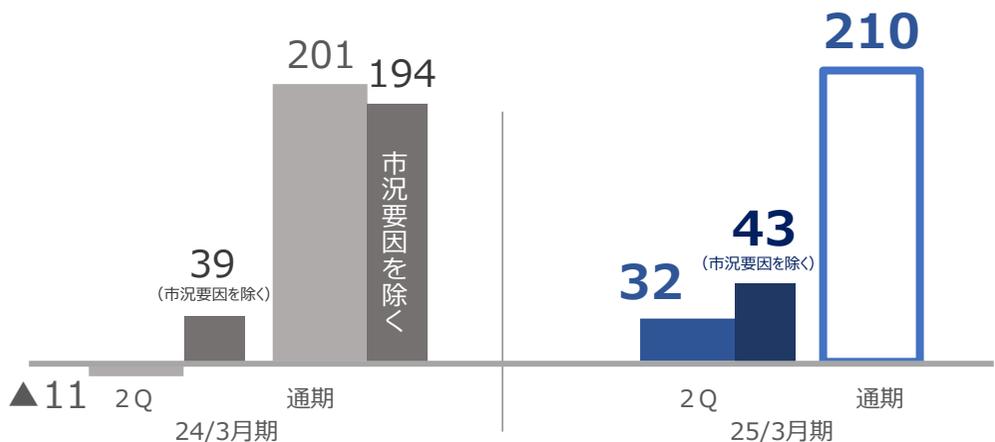
売上高

業績見通しの変更：なし (単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



通期業績予想の達成に向けて

・L P ガス事業の拡大

- ・ M&Aを中心としたL P ガス直売顧客数の拡大による販売数量の増加
- ・ 重油からの燃料転換の推進とカーボンオフセットガスの拡販を通じたエネルギーの低炭素化への取り組み強化
- ・ 物流効率の改善による事業基盤の強化とコスト削減

・エネルギー関連機器等の拡販

- ・ カーボンニュートラル商材（エネファーム、太陽光、蓄電池等）の拡販
- ・ B C P 対策に向けたL P ガス非常用発電機やG H Pの拡販

・カートリッジガス事業の拡大

- ・ 国内では、新商品開発を通じた需要創出による国内市場での拡販
- ・ 海外では、タイの工場を起点とした東南アジアを中心とした事業拡大

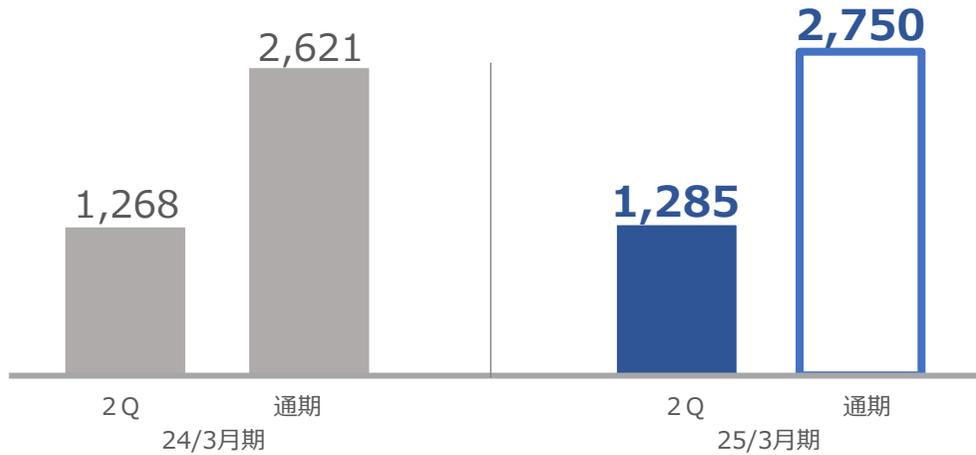
業績が変動する主な要因

- ・ L P ガス輸入価格、為替の変動
- ・ 気温高等によるL P ガス販売数量への影響

産業ガス・機械事業の見通し

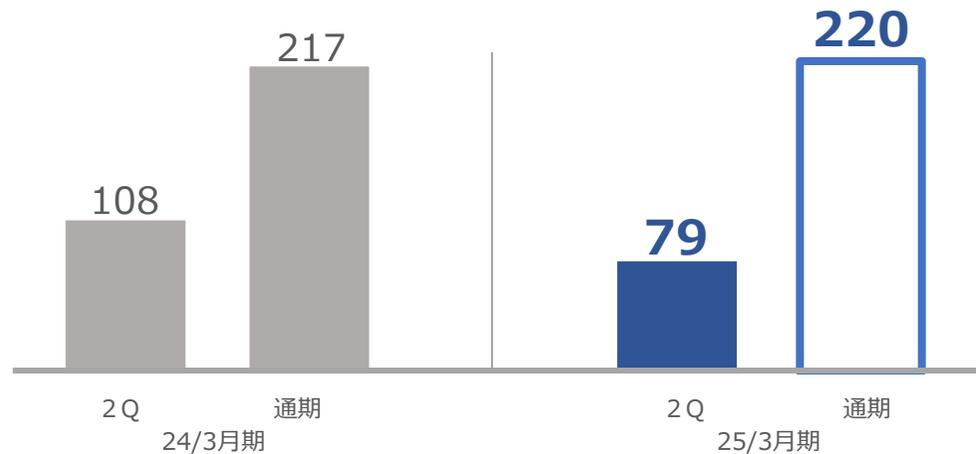
売上高

業績見通しの変更：なし (単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



通期業績予想の達成に向けて

・エアセパレートガスの適正な価格対応と拡販

- ・ 半導体・電子部品業界等への拡販に注力
- ・ 調達コスト・物流コスト上昇への適正な価格対応

・液化水素の新規需要取り込み

- ・ 脱炭素需要に対し、液化水素や関連設備の拡販を強化

・特殊ガスの事業拡大

- ・ 調達コスト・物流コスト上昇への適正な価格対応
- ・ ヘリウム・炭酸ガスの安定調達、安定供給

・機械設備の拡販

- ・ 脱炭素関連など成長分野向けに機械設備の拡販

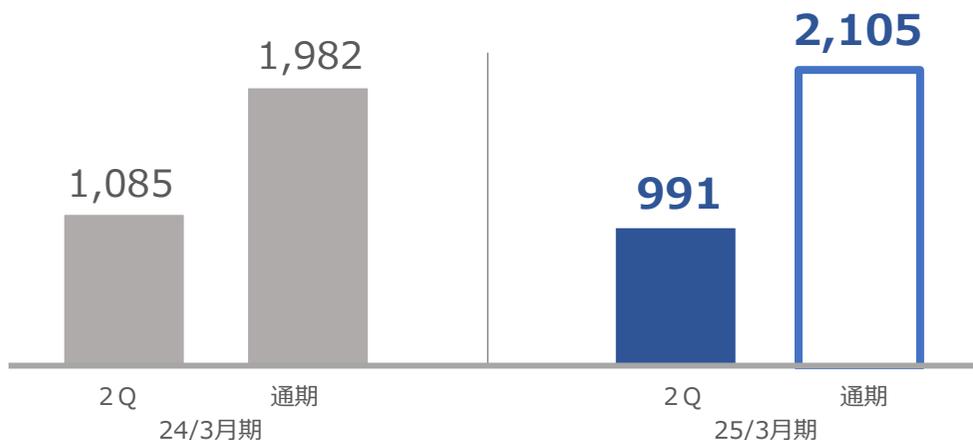
業績が変動する主な要因

- ・ 製造コストや物流コスト上昇
- ・ 製造業の生産動向

マテリアル事業の見通し

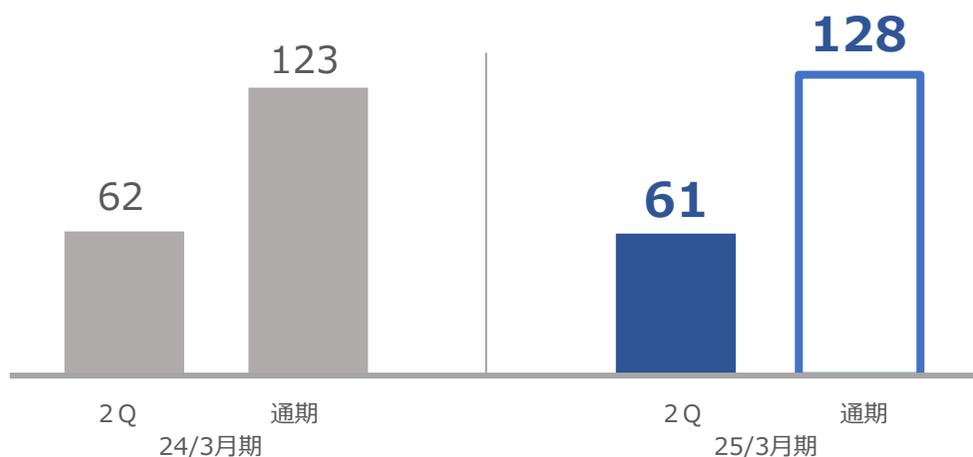
売上高

業績見通しの変更：なし (単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



通期業績予想の達成に向けて

・環境ソリューション事業の拡大

- ▶ 低環境負荷PET樹脂・バイオマス燃料の拡販
- ▶ 資源リサイクル事業などの取り組み推進

・鉱物資源事業の強化

- ▶ 調達ソースの多様化・安定化による収益の確保

・金属事業の拡大

- ▶ 海外金属加工事業の拡大
- ▶ ステンレスの新規顧客獲得

・先端材料の開発推進・事業化

業績が変動する主な要因

- ・資源市況の変動
- ・為替変動

株主還元方針

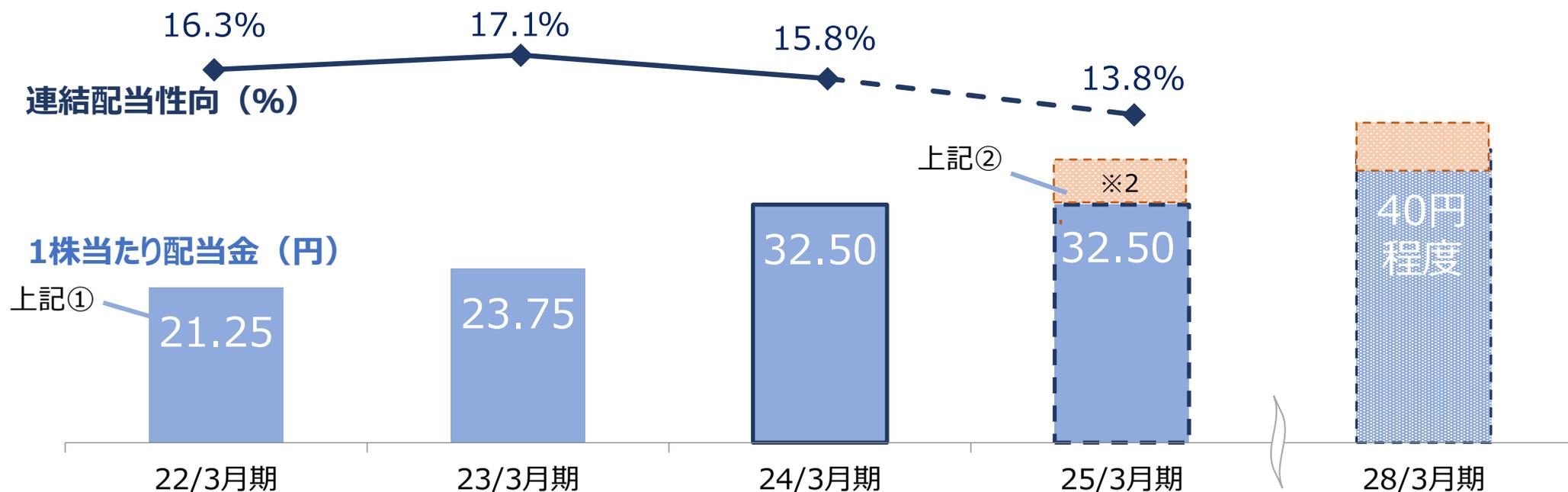
①コスモエネルギーHDの持分法化に伴う利益影響を除く当期純利益【PLAN27と変わらず】

・2027年度に、配当性向20%以上を目標とする累進配当

②コスモエネルギーHDの持分法化に伴う利益影響

・コスモエネルギーHDの在庫影響を除く当期純利益に持分比率を乗じた金額の20%を配当
(コスモエネルギーHDの在庫影響を除く当期純利益の増減に伴い配当金額は毎年変動)

▶ 2025年3月期は、1株あたり32.50円の配当を予定。^{※1}



※1：2024年9月30日を基準日、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しました。記載内容は、当該株式分割後の金額です。

※2：2025年3月期においては、コスモエネルギーHDの持分法化に伴う利益影響の配当は含めておりません。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

中期経営計画「PLAN27」の進捗

中期経営計画概要

テーマ

水素エネルギー社会の実現に向けて

基本方針

「社会課題解決」と「持続的成長」に向けた事業拡大

重点施策

- ① 水素戦略
- ② 脱炭素戦略
- ③ 国内エネルギー・サービス戦略
- ④ 海外戦略
- ⑤ 非財務戦略

経営数値目標

	2027年度
ROE	10%以上
ROIC	6%以上
営業利益	650億円

資本政策

	2027年度
5年間累計投資額	4,700億円 ^{※1}
株主還元	配当性向20%以上 累進配当 ^{※2}

※1 コスモエネルギーHDの株式取得を除く

※2 市況要因を除く当期純利益ベース2027年度の目標値

重要施策の進捗

水素戦略

- ・水素関連分野への投資に特化した「Japan Hydrogen Fund」への出資
- ・水素燃料電池船「まほろば」が完成。旅客運航に向けた実証運航を実施予定
- ・水素を燃料とした「タイヤ式門型クレーン」による荷役作業を開始

脱炭素戦略

- ・世界最大手のPET樹脂メーカー「インDRAM社」（タイ）とリサイクルPET事業について検討（経済産業省の「グローバルサウス未来志向型共創等事業」に採択）
- ・チタン鉱石の安定供給に向けた調達の多角化

国内エネルギー・サービス戦略

- ・LPガス直売顧客数の2万世帯増加（23年度：111万→24年度2Q：113万）
- ・関東首都圏エリアにおける、物流合理化（配送会社を統合）

海外戦略

- ・シンガポールに各種産業ガスの供給拠点を開設
- ・インドネシアの産業ガス既存工場にて、ASUの増設中

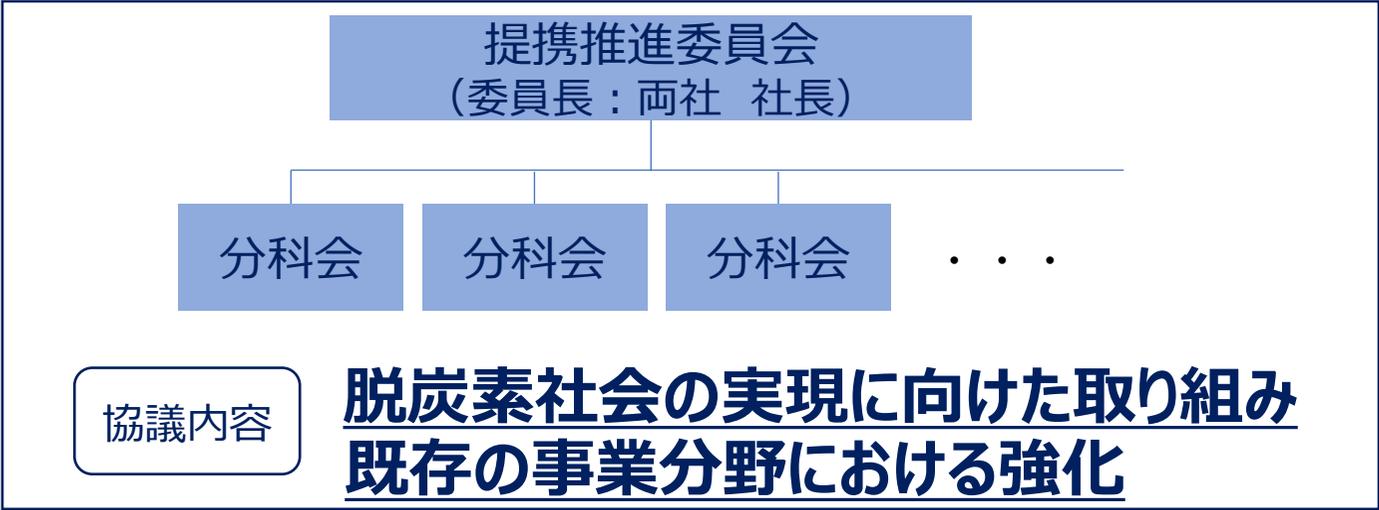
コスモエネルギーホールディングス株式会社との 資本業務提携について

これまでの取り組み



2024年3月28日 株式追加取得／持分法適用関連会社化

2024年4月23日 資本業務提携契約締結
提携推進委員会 発足



2024年4月30日 第1回提携推進委員会 開催



シナジー創出に向け、分科会を設置し提携協議を推進

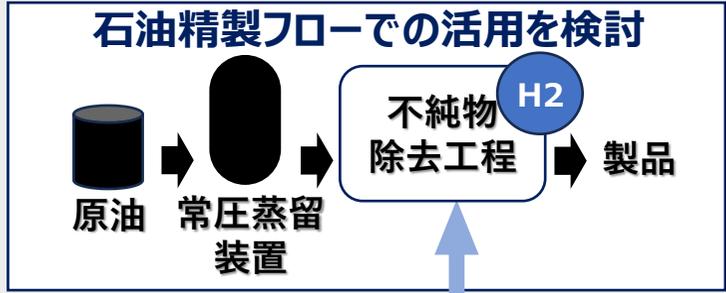
2024年9月26日 第2回提携推進委員会 開催

協業検討案件 ～脱炭素社会の実現に向けた取り組み～

1. 国内における水素製造（コスモ石油（株）の製油所を活用）



コスモ石油（株）の千葉製油所内



2. 岩谷コスモ水素ステーション合同会社による、水素ステーションの建設推進

- 2024年4月開所 岩谷コスモ水素ステーション平和島
- 2025年度開所予定 都バス有明自動車営業所に建設中
- 時期未定 都バス新砂自動車営業所に建設予定



協業検討案件 ～既存の事業分野における強化～

3. 両社の事業基盤を活用した顧客サービスの拡充および災害対応の連携



L P Gセンター

Iwatani

L P ガス
営業拠点 約280カ所
配送拠点 約130カ所



直営の S S
約600カ所



サービスステーション



Marui Gas 災害救援隊



各種顧客サービス

4. 炭酸ガスの原料取引の拡大検討を開始

石油精製時に発生する炭酸ガス (CO₂) をコスモ石油 (株) から調達の上、製品化し、販売

Iwatani